放射性物質摂取量調査参加者の「つどい」を開催

距離が近く、質問しやすい雰囲気の下、「つどい」が行なわれた。

5月25日、コープふくしまは、昨年11月から今年4月にかけて実施した食品からの放射性物質摂取量調査の結果報告と2012年度に実施する同調査参加者への説明会をコープマートいずみ店で行ないました。

5月25日、コープふくしまは、放射性物質摂取量調査の結果報告と2012年度の調査の説明を行なう「参加者のつどい」を開催しました。この調査は日本生協連が全国18都県（250家庭）で行なったもので、そのうち福島県内では100家庭が参加しました（本誌16号参照）。

つどいには、2011年度の調査参加者と2012年度の参加予定者計16人、そしてコープふくしまの組合員理事も参加しました。

コープふくしま常務理事の宍戸義広さんは、「漠然とした不安で県外に避難されている方々が、この取り組みや結果を知ることによって、少しでも安心して福島に戻って来られる一助になれば」と話していました。

1回目の摂取量調査を受けた福島市内に住む参加者の一人は、「放射性物質に関して分からないことも多かったので、今日は納得できるまで調査結果について質問しました。生協で調査をして大丈夫ということでしたので、野菜をご近所に分けたり、孫にも安心して食べさせることができます」と喜んでいました。

「たまり場」へみんな「こらんしょ」！

お菓子を食べながら、話がはずむ。

「こらんしょ」とは福島弁で「おいでになってください」の意。5月29日の「たまり場 こらんしょ ふたば」（コープふくしま主催）にはさいたまコープの組合員理事・職員もかけ付けました。

福島県内各地で、被災された方の交流の場を設けているコープふくしま。その中で、南相馬市の仮設住宅で行なわれる「ふれあいひろば」には、さいたまコープも運営に協力してきました。

今年4月からは、新たに、郡山市の富田町仮設住宅で「たまり場 こらんしょ　ふたば」が開催されています。こちらにも、毎回さいたまコープは協力しており、3回目の5月29日には、組合員理事と職員の10人が福島に足を運びました。

コープ商品のお菓子を用意してきた、さいたまコープ組合員理事の新井ちとせさんは、次のように思いを語ります。

「商品を真ん中にして、お茶を飲みながらわいわい世間話をして『今日は楽しかったよ』と言って帰っていただける関係を作っていけたらいいなと思いました」

コープふくしまの生活文化グループで郡山市担当の松崎美智子さんも、「道具など、福島で準備できるものはこちらで準備したりと、互いに協力して活動できるのがうれしいです」と話していました。